



東日本大震災 被災者支援 北海道民医連ニュース

2011.4.5

被災者の生活支援がますます重要に

昨日帰道した第4次支援隊から最終日の報告です。

大船渡チーム

3日は盛岡医療生協から理学療法士、作業療法士が2人応援に来て下さいました。早速、長い避難生活による高齢者の廃用予防の体操、歩行や立ち上がり、関節曲げ伸ばし訓練などを高齢者が多い避難所で行い、車イスから立ち上がり杖で歩けるようになった方もいて、周りの方々から驚かれました。

盛岡からは更に医師ら3人が合流。4日午後には帰路につく私達から引き継ぎ、夜到着の第5次チームにつないでくれます。

避難所や往診先の高齢者には震災で体調を崩し寝込んでいる人が少なくありません。新たな要介護認定が出来ない状態のため市に相談したところ、保健師が訪問して暫定的に介護サービスが利用出来ることになり、早速2人の方が新規申請しました。

市は介護が必要な人を対象にした福祉避難所の開設を計画しますが、肝心の介護職員が確保出来ず困っています。こうした面での支援も検討すべきかと思えます。

休診していた開業医療機関も少しずつ再開しており、市では4日から路線バスを無料で走らせます。止まっていた電気や水道も順次開通してきましたが、この赤崎地域のように断水しているところも依然多く、インフルエンザ等ウイルス感染症が起きた避難所も有ります。引き続き、医療と介護、生活支援が必要だと感じています。

(十勝勤医協 笠松信幸さん)



床上2mの津波を 息子さんと耐えた寝たきり老人

地震直後、息子さんがお母さんを抱えて逃げようとしたときに、津波に襲われたということです。そのまま、天井近くまで持ち上げられ、天井の梁につかまって耐えていたら、畳が浮き上がってきたので、それにお母さんを乗せました。水は2mまであがってきて、天井との隙間がちょっとしかない状態までなったとのことですが、そこで止まったので、なんとか九死に一生をえたということです。
(3日 大船渡市で往診)

坂病院チーム

避難所は掃除ができておらず、ホコリが舞いやすく、かつ乾燥し、食事も菓子パンとバナナだけなど、生活環境が病気の要因に繋がっています。

避難所の一角に簡易の診療スペースを作り、訪れる患者を診ながら、隣では足浴の希望者も募り洗いました。

私も実際に足を洗わさせてもらいましたが、「気持ちいい。震災以降洗えていない。来てよかった。ありがとう」と辛い想いをされていながら、感謝されて心が苦しくなりました。

このような生活支援が今後ますます重要です。

(オホーツク勤医協 西野由多加さん)

